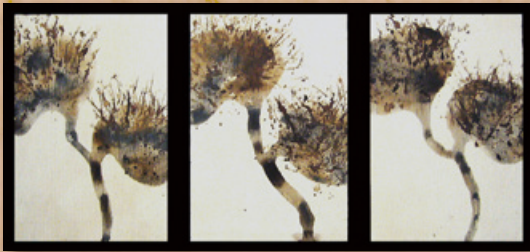


原郷と依代—溜絵によせて 〈スペイン洞窟壁画との共鳴〉

北村ヒロシ



作品 F-1, 2, 3 25cm × 18cm (54cm)

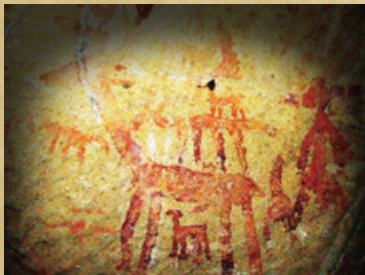


作品 E-3 24cm × 50cm



作品 H-1, 2, 3 47cm × 18cm (54cm)

(作品使用材: 胡桃渋、真珠母粉、金粉、墨、ニス)



スペイン洞窟壁画探索
映像作品「原郷と依代」

“ロープをつたって深い深い洞窟の闇の中へ。万年の彼方のヒトが描いたものが、あたかもつい昨日指でひかれた線のように、あざやかに、鮮明に浮かび上がってくる”

2011年 3月13日(日) / 4月24日(日) / 5月1日(日)
午後1:00~1:30 鑑賞会(予定)



猪風来美術館 【アクセス】

- 岡山から車で約90分
- 岡山空港から車で約70分
- 賀陽ICから車で約45分
- 新見ICから車で約30分
- 井倉駅からタクシーで約15分
- 方谷駅からタクシーで約10分

スペイン国内に点在する洞窟壁画は、およそ2万5千年ほど前までの幅広い時代に及ぶ。線刻の具象描写から点描、幾何図形に至り、そしてまた具象と幾何図形の混合したものなど眺める事が出来る。気候の変化による部族の移動、異なる部族間との接触交流により新たな知識技術を持ち備え、それぞれの長い時を繰り返しながらヒトの歴史を形成して来たと言えるだろう。

そうした条件下にある彼らにとって、「死」は「生」以上に具体性を持つ、特別な世界であったに違いない。なぜなら狩猟という行為は、「死するものを食し、生をつなぐ営み」であるからである。そしてなおかつ、ヒトとしての「死」そのものは彼らに何を意味したのであろうか？ この問いは、現在の私たちにとっても同等の事であろう、それともすでに忘れられた世界なのだろうか。

命あるものがたどり着くところ、命ないものがたどりつくところ。
私たちの目に見えぬところにあるもの、風景の中にあるもの。

ヒトとしての内部の奥深いところに水が溜まるような「場」、それを私は「原郷」とした。その小さな水溜まりから派生する、生命が成長しようとする試みを「依代」に見たのである。洞窟の奥深い壁画に描かれた彼らの意志するところのものと、今の私たちとの共有が可能だろうか？ おそらく、それらは共有以前の事柄なのかも知れない……。

今回の猪風来美術館という特別な所に並ぶ作品、またスペインの洞窟めぐりの資料から拙い20分ほどのビデオを編集した。その中から、私が感じるところのものがいくらかでも伝わっていただければ幸いである。

バルセロナにて 2011 冬

HIROSHI KITAMURA 北村ヒロシ (スペイン・バルセロナ在住)

略歴

- 1955 函館市生まれ
- 1981 「ウラヌス祭」「詩の隊商」「北の詩人たち」に参加、展示活動
- 1986 渡欧。バルセロナ、ジョッジャ美大分校、アルテ・デル・ジブレにて古書修復/製本/印刷部門専攻
- 1990 「球体」コンパニア・ジョアン・ミンゲルにて舞台装置(フェスティバル・デ・シッチェス)
- 1992 アルゴ'92木版画「時間の風化」出展ギャラリー・トゥリント(マドリッド)
- 1998 絵画個展「水平線の彼方へ」シレヌス(バルセロナ)
- 2001 ビデオ・アート「動詞」、「風の方程式」バルセロナ・アルテ・コンテンポラーネオ
- 2002 第3回ビエンナーレ・デ・ビック「供物」絵画出展(ビック)
- 2009 絵画個展「風の凸凹」シレヌス(バルセロナ)

北村ヒロシ氏はスペイン在住のアーティストです。スペインで25年間生き抜いた彼は、今ピレネー山脈やアンダルシア地方の洞窟に身を潜めて2万5千年から8千年前に描かれた壁画と対峙し、己の内心の鼓動に耳を澄ませます。

「ヒトとしての内部の奥深いところ」をまさぐり続けた彼は、ついに創造するヒトというものの根源に突き当たったのだと思う。「ヒト」が「作る」ということの根源から生みだされた作品は、彼だけが表現しうるシャーマンな精神世界を開示する。

「縄文」という日本列島の古層に咲く造形美を追及する猪風来美術館で、今回北村ヒロシ展を企画することは、2人の作家の根源「縄文」と「洞窟壁画」が響き合う芸術的スパークの場になると確信しています。

猪風来美術館館長 猪風来

■猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)では縄文野焼き作品をはじめ、法曾焼、絵画など、縄文造形作家・猪風来(いふうらい)による独自の縄文スパイラル造形の作品二百数十点を常設展示しております。

■今回の企画展では、スペイン・バルセロナ在住の北村ヒロシ氏の、スペイン洞窟壁画探索とそれに共鳴・共振した彼の精神世界を表現した絵画作品41点を展示。また会期中、洞窟めぐりのビデオ上映も予定しています。どうぞ高覧ください。